

# 当施設利用規約・注意事項

施設利用注意事項		クライミングエリア について	
①	アルコール、危険薬物などを飲んでいる場合ご利用はできません。	<b>登る前の注意</b>	
②	施設内外設置物の利用(駐車場含む)は、施設利用料を支払う者のみとする。 ※子供の責任者と、初回利用検討見学者は除く。	①	手足の爪が長い場合割れたり、はがれる恐れがあります。爪切りを用意しているので、切ることをおすすめします。
③	上半身裸、裸足で登ることはできません。必ず服の着用とクライミングシューズを履くこと。レンタルシューズは靴下を着用すること。	②	指輪や腕時計、イヤリングやピアスは外して下さい。キズが付くだけでなく、自身の怪我の原因となることがあります。
④	18歳未満は、利用規約・誓約書を保護者に確認し、保護者に同意書の記入をしてもらい利用すること。必ず保護者が記入すること。	③	眼鏡を使用の方は眼鏡バンド着用をおすすめします。落ちた衝撃で壊してしまうことがあります。
⑤	小学生以下は、保護者又は20歳以上の引率者が同伴し来店すること。 ※「小学生利用認定者」は除く(「子供利用について」に記載あり)	④	衣類に鍵を付けた状態、ポケットに物を入れた状態での利用はお止め下さい。落として破損、自身の怪我の原因になることがあります。
⑥	施設内での紛失及び盗難に関しては、当施設では一切責任は負いません。貴重品などは自己管理すること。	⑤	動きやすい服装に着替え、準備運動をすることをおすすめします。怪我の予防になります。
⑦	駐車場での事故や盗難には当施設では一切責任は負いません。自己処理すること。	⑥	服装は、動きやすい服装でおこないレンタルシューズをかりる場合は靴下着用をして下さい。チョーク(滑り止め)が白くつくことがありますので多少汚れても良い服装をおすすめします。
⑧	他のお客様の迷惑となる行為、または施設管理運営・安全上支障があると判断した場合施設の利用を中断し退店していただきます。	⑦	ホールド(クライマーの手がかり)は、ボルトにより壁に取り付けられています。メンテナンスは常に行っておりますが、強い負荷が加わることにより回転したり、強い負荷が加わる事により割れて落下することがございます。性質上完全に防ぐことができない為、この可能性があることを十分理解し認識した上でご利用下さい。
⑨	⑧での理由やその他で、スタッフの警告や注意を何度も受け改善されない場合、利用を中断し退店していただきます。またそのような方は以後の来店もお断りすることもあります。	<b>ボルダリング マナー</b>	
⑩	領収した代金は、如何なる場合でも返金いたしかねます。怪我など自己体調管理に気を付け下さい。	①	登っている人の下には絶対に入らないこと。落下した人と接触し両者共に重大な怪我をする危険があります。
⑪	施設内の忘れ物は1ヶ月間保管、その間にお問い合わせの無い場合は処分させていただきます。	②	各面毎に登れるクライマーは一人です。壁はアルファベットで名前が分けてあります。隣の壁で登っている人の同行も確認の上登ること。
<b>保護者のみなさまへ</b>		③	長時間同じ壁を占領しないこと。他のお客様と譲り合い利用して下さい。
①	同意書のは必ず記入すること。規約・誓約書は必ず一読して下さい。ご理解いただいた上でご利用下さい。	④	混雑時は、長ものルート(番号課題)又は複数面を使用するルートは登るのは控えて下さい。
②	マットの上は走らせないこと。飛び跳ねて遊ばせないこと。壁からマットへジャンプして遊ばせないこと。	⑤	着地後は速やかに壁から離れ、他のお客様が登りやすい環境をつくって下さい。
③	常にお子様から目を離さないこと。他のお客様が落下した際、下に居れば接触事故となり重大な怪我へとつながります。その場合下に居た者の責任となります。	⑥	ホールド以外の物を掴んだり(ハンガーやカラピナや壁上部など)、又はボルト穴に指を入れて登らないこと。手を怪我する危険があります。
④	小学生以下一人につき保護者一人必ずそばにつくこと。二人の場合は一人ずつ登らせ同時に別の壁で登らないこと。	⑦	壁上部で壁の裏を覗きこまないこと。落ちた場合怪我をする危険があります。
⑤	自力で降りれない高さまで登らせないこと。子供が自力で降りれなくなった場合、責任者が腕で支えて降ろしたりせず、マットへ着地させること。それができない場合はスタッフまで声をかけること。	⑧	お客様自身でルートを作成する場合、危険なルート作成はしないこと。安全な着地ができないルートや、マット外に落ちる可能性があるルートは危険です。
⑥	大声で騒がせないこと。マット以外の場所でも施設内では走り回らせないこと。	⑨	ロープクライミングをしている方が居る場合、隣接した壁をボルダリングで利用するのは控えること。クライマーと確保者に接触し危険生じることがあります。
⑦	おもちゃの持ち込みをさせないこと。クライミング以外で遊ばせないこと。	<b>着地について</b>	
<b>休憩所・更衣室・駐車場について</b>		①	着地は必ず足からすること。腰や手や肩などから落ちると身体を痛める原因になります。膝の屈伸で衝撃を緩和させ着地して下さい。
①	食事はクライミングエリア(マット近く)ではせず、休憩スペースですること。	②	着地地点の安全を確認してから降りること。着地点に人や障害物がないことを確認して下さい。
②	更衣室以外の場所で着替えず、男性・女性各更衣室で着替えをすること。	③	故意に壁上部からマットに飛び降りないこと。余力がある場合、高度を下げて着地すること。腰や膝の故障を防ぐ為でもあります。
③	室内は禁煙です。室外の喫煙所を利用すること。	④	トライするルートからの落下場所を意識して登ること。
④	施設側が提供する駐車場以外には絶対に駐車しないこと。	<b>マットは安全を保障するものではありません。着地を誤ると重大な怪我へつながります。マットを過信せず着地に十分ご注意ください。 ボルダリング・クライミングは自ら登るスポーツである為、落下危険察知能力が必要です。危険察知に自信がない場合、登る事を控えて下さい。</b>	
⑤	第二・第三駐車場から施設へ移動する際、他の敷地や施設へご迷惑とならぬよう移動をすること。※隣施設の敷地に入らないこと。		

# 当施設利用規約・注意事項2

## ロープクライミング利用について

ロープクライミングエリアの使用は、経験者(熟練者)その経験者と同伴の方、またロープクライミングをするにあたって、使用する道具の装着方法や使用方法それに準ずる注意事項を十分理解しなければ重大な事故や怪我をする危険があります。しっかりとしたクライミング技術、確保技術がない限りロープクライミングエリアの使用はご遠慮下さい。使用されるお客様も以下の注意事項をお守りいただくことを条件とします。

### 道具

- ① 使い慣れた道具を正しくご使用下さい。不慣れた道具を使用される場合はメーカーの使用法を良く読み十分理解し人を登らせず練習してからご使用下さい。
- ② 老朽化したロープ・ハーネス・確保器・クイックローなどのご使用はお止め下さい。
- ③ 短いロープは使用しないで下さい。当施設リード壁の高さは約8メートルです。斜めや横に登るなど、折り返し分も考慮し余裕を持ち20メートル以上は必要です。
- ④ ハーネスはご自分に合うサイズをご使用下さい。大きすぎると体が抜け落ちる危険があります。折り返しのあるハーネスは必ずバックルに折り返して下さい。
- ⑤ ロープはハーネスの正しい位置に結んで下さい。ビレイループやギアラック等には結ばないで下さい。
- ⑥ ロープをハーネスに結ぶ際は、8の字結びで結んで下さい。クライマーがロープを結んでいる際は話しかけないで下さい。不安な場合は結び直して下さい。

### 確保(ビレイ)

- ① ビレイヤーは、ロープで繋がっているクライマーを絶対に地面まで落としてはなりません。重大な怪我となります。常に緊張感を持ちビレイを行うこと。
- ② 確保器は安全環付カラビナ(ロック付)を使用して下さい。
- ③ クライマーが本目のランナーにロープをクリップするまでは、スポットを行って下さい。ロープが足に絡まらないようビレイヤーはロープもさばく必要があります。
- ④ ビレイ中は必ず止める側の手をロープから離してはなりません。離れた際にクライマーが落ちた場合止めることができなくなります。
- ⑤ ビレイヤーは常にクライマーから目を離さないこと。よそ見をしたり他の方と話し込んだりするのはいけません。
- ⑥ ビレイヤーは必ずクライマーの指示に従いクライマーからの合図で操作を行って下さい。
- ⑦ クライマーが気付いていない危険が見受けられた場合、すぐクライマーに知らせそれを回避させて下さい。Zクリップやロープと壁の間に足がある場合など。
- ⑧ クライマーとの体重差(クライマー>ビレイヤー)が大きい場合、パートナーを換えるか、いない時はセルフを取って下さい。
- ⑨ 壁から後ろに下がってのビレイは危険ですのでお止め下さい。クライマーが落ちた場合強い衝撃により壁に引かれ、ロープが流れてクライマーが地面に落ちる危険と、落ちた際クライマーの足にロープが絡み火傷や身体が逆さまになり頭を壁に打ち付ける危険があります。ビレイヤーはクライマーが登るルートを検討しビレイの位置には十分注意して下さい。
- ⑩ ロープは必要以上に出し過ぎないこと。ロープにたるみがある場合クライマーを地面まで落としてしまう危険があります。たるみはすぐに引いて下さい。
- ⑪ ビレイヤーは手袋をして下さい。クライマーが落ちた際や下降の際にロープと手が擦れて火傷をする危険があります。
- ⑫ クライマーを下降させる際、クライマーが安全な状態になったかどうかを確認してから下降を開始して下さい。
- ⑬ ビレイの解除は、クライマーが完全に着地し安全であることを確認してから行って下さい。
- ⑭ クライマーがハーネスとロープを付け直した際は、必ずビレイヤーはクライマーのハーネス装着とロープの結びが正確にされているか確認して下さい。

## クライマー

- ① ロープクライミングの壁は一人づつしか取り付くことができません。複数人取り付かないで下さい。
- ② 他のボルダリング壁で登っている方の状況を確認の上登り始めて下さい。落下の際ボルダリング壁の方と接触すると危険です。
- ③ ビレイヤーが確保器を正しく装着しているかを見て、自分のハーネス装着とロープの結びをビレイヤーに見せ、必ず互いに確認し合ってから登って下さい。
- ④ 自分がどのルートに登るかをビレイヤーに伝えてから登り始めて下さい。ビレイヤーの位置によっては危険な場合があります。
- ⑤ ハンガーやカラビナは掴まないで下さい。ハンガーやカラビナを掴んだ状態で墜落すると手の骨折または切断等の怪我をする危険があります。
- ⑥ ロープと壁の間に足や体を入れしないで下さい。その状態で落ちた場合、足がロープに絡んで逆さまになり頭部を壁に打つ危険があります。
- ⑦ ランナーポイントを飛ばさず、ルートのライン上のランナーは全て利用すること。飛ばすと落下距離が伸びて危険です。
- ⑧ ロープを手繰った状態のまま動かないで下さい。その際に落ちると落下距離が伸び大変危険性が増します。
- ⑨ ロープを手繰った状態で落ちることは危険ですお止め下さい。自分の余力を考え登って下さい。落ちる時でもできるだけビレイヤーに声をかけてから離れて下さい。
- ⑩ ロープはカラビナに正しくかけて下さい。逆クリップやセットクリップなどをした場合カラビナからロープが外れたり、身動きがとれなくなる危険があります。
- ⑪ カラビナをかける向きは、ロープが流れる方向も考慮しかけて下さい。ゲイト側をロープが流れるとごくまれに落ちたショックによりロープが外れる危険があります。
- ⑫ 終了視点はカラビナを2個かけてからローダウンをビレイヤーにしてもらって下さい。
- ⑬ トラテープラインより下にかけたクイックローの回収は降りてから登り返して回収して下さい。トラテープまではボルダリングで登れる高さです。下にはマットがあります。
- ⑭ 登り終わったら、次に利用される方の為にも早めにロープを抜いて下さい。結び目は必ず解いてから抜くようにして下さい。

ロープクライミングは、ロープを結び合うパートナーとの意思疎通が大切です、信頼できるパートナーと登るようにして下さい。もし事故が起こった際にお互いが辛い思いをさせていただきます、そうならない為にも安全管理に常に気を配り危険になる行為や状況を見つけた際は直ちに伝えそれを回避するように努めて下さい。技術に不安をお持ちの方は、利用を控えて頂きますようお願い致します。



2018年6月11日更新